

個人探究

■保護者の皆様、いつも私たちを温かく支えてくださり、ありがとうございます。中学校生活がスタートしてしばらく経ちますが、今、私たちのクラスが一番エネルギーを注いでいる「個人探究」の時間について、生徒の視点からお伝えします。

中等部一年生となり、私たちの個人探究はこれまで以上に高いステージへと進化しています。一人ひとりが自分の内側にある「なぜ？」とトコトン向き合い、自分だけの答えを導き出す濃厚な時間を過ごしています。

■ 指示を待たずに、自律して突き進む時間

探究の授業が始まると、教室の空気は一瞬で変わります。「次は何をすればいいですか？」と先生に指示されるのを待つ人は誰もいません。

私たちは、自分自身で「今日はここまで進める」「次はあの文献を読み込む」「このデータをグラフ化する」と見通しを立て、自律して活動を進めています。自分の内側から湧き出る「もっと知りたい」「これを証明したい」という気持ちから、大人顔負けの集中力を発揮して画面や資料に向き合っています。MacBookを自分の手足のように使いこなし、黙々と、しかし確実に自分の思考を深めています。

■ 一人ひとりのこだわり。それぞれの問いの切り口

クラスを見渡すと、社会問題、自然科学、アート、テクノロジーなど、様々なジャンルの探究が進んでいます。中には似たジャンルのテーマを追いかけている仲間もいますが、そこからどうアプローチするか、どこに注目するかという「こだわり」や「問いの切り口」は、一人ひとりが全く違う独自のカラーを持っています。インターネットや本からたくさんの情報を集め、そこから自分なりの答えを見つけ出そうと、それぞれが熱心に思考を深めています。

■ 進化し続ける、私たちの挑戦

学校での個人探究の時間、みんなの目は本当に真剣そのものです。それぞれの「好き」や「疑問」に向かって、周りに流されることなく、まっすぐ突き進んでいます。中学生になり、さらにレベルアップした私たちの「個人探究」の挑戦を、どうぞこれからも楽しみにしてください。

野崎裕太

第1回・暖真のラーメン魂

■ 癖になるとんこつラーメンのおいしさ

皆さん突然ですがとんこつラーメンはお好きでしょうか？ 僕はすごく大好きです。

あの白くてクリーミーなスープは、見ただけでお腹が鳴ってしまいそうですよね。実はあの白さは、豚の骨を強い火で何時間も、ボコボコと沸騰させて煮込むことで、骨の旨味と油がスープに溶け込んでいるからなのです。

ラーメンには独自の食べ方があります。まずは麺の硬さ（硬め）（バリカタ）。特徴的なお店では（ハリガネ）という硬さのある店もあります。そしてラーメンのスープだけを残して替え玉というシステムもあってとてもワクワクします。

みなさんは、とんこつラーメンを食べる時のこだわり（麺の硬さやトッピング）はありますか？

「僕はバリカタ派！」「チャーシューは最後に食べる！」など、みなさんのこだわりをぜひ教えてください。

多賀暖真